

2009年(平成21年)6月5日 金曜日

# ゲーム機使い進行抑制

## 専用リハビリセンター開設

パーキンソン病

国立病院機構徳島病院(吉野

川市鴨島町敷地)は、神経の難病「パーキンソン病」専門のリハビリセンターを開設した。セ

ンターでは、家庭用ゲーム機を使って病気の進行要因のストレスを解消するリハビリを実施、薬物療法に並ぶ新たな治療法として確立を目指している。徳島病院によると、神経難病を対象にした本格的なリハビリは全国でも珍しいという。



# ストレス解消治療法に

## 徳島病院(吉野市)

センターは症状の軽いみ。

患者が対象で、神経内科メニューは患者一人一人に合わせ、柔軟体操や医と言語、作業、理学各療法士の計16人で運営。発声練習などの基礎訓練リハビリに取り組み入院期間が4週間、その間に独自のメニューに取り組む。5月中旬から患者2人が入院し、リハビリに取り組んでいる。その1

組んでもらう。本年度は60人を受け入れる見込で、バランス運動ができると、ストレス解消方法として、ゲーム機「Wii(ウイイー)」を使ったプログラムや音楽鑑賞、カラオケ、化粧などを取り入れている。退院後も自宅で続けた

パーキンソン病は薬に

軽い運動が楽しめるゲーム機を使ってリハビリに取り組み患者は吉野川市鴨島町の徳島病院  
センター長の三ツ井貴夫医師は「患者には心配性の人が多い。楽しいリハビリで少しでも症状を和らげてほしい」と話している。

《パーキンソン病》脳内で神経伝達物質のドーパミンが不足し、手足の震えや動作が緩慢になる症状が徐で発病するといわれ、県内で神経伝達物質のドーパミンに進行する病気が10万人の患者は1千人以上とされる。150〜200人の割合。